

指定校番号	28115	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市中学校	校長	大原 俊哉	生徒指導主事	金田 耕治
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『思いやりについて考えよう』

取組のねらい『キーワード 思いやり』

・本校では、目指す学校像を知・徳・体の土台となる「挨拶・姿勢・一生懸命・思いやり」の精神が貫かれた学校とし、その精神を大切にするとともに、「さわやか十中」をキャッチフレーズに取り組んでいる。その中でも、思いやりに欠ける言動があるため、本事例は、生徒会活動を通して、「思いやり」について今一度考えさせ、身の回りにある思いやりに気付いたり、思いやりに欠ける行動を改めたりする風土を醸成することをねらいとしている。

取組の具体的内容『キーワード 自律・自己調整』

- ・生徒会執行部で「思いやりについて考えよう」ということを企画して、総務委員会で提案し、総務委員を中心に日頃の「学級の思いやり」に立ち返らせ、各学級の思いやりについて定義する。
- ・個々で考え集約した「各学級の思いやり」を受け、「十日市中学校の思いやり」について、総務委員会及び生徒会執行部で協議し定義する。
- ・「学級の思いやり」とともに、「十日市中学校の思いやり」を掲示する。
- ・生徒一人ひとりが日頃から身の回りにある思いやりに気づいたり、思いやりに欠ける行動を改めたりする、生徒の自己調整の指針とする。



取組の課題・創意工夫『キーワード 取組を通して「日常化」』

- ・生徒会の委員会活動や学級活動で、今回の「思いやりについて考えよう」という活動をはじめ、他にも「ありがとうカード」等の取組をしている。
- ・今後は、これらの取組を通して、生徒たちが気付いたことや考えたことを、自らの学校生活に日常化する取組を継続させるとともに、さらに、取組の内容を教科学習やあらゆる教育活動と連動させるなどの工夫改善が必要である。

取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感の向上』

- ・生徒会行事や活動後の生徒アンケートによると、「自分の良さは、まわりの人から認められていると思う」の項目の目標値 70%に対して、肯定的評価の割合は 80%（1年 88%，2年 74%，3年 78%）であった。
- ・「学校は楽しい」（生徒アンケート）の項目の目標値 85%に対して、肯定的評価の割合は 91%（1学年 98%，2学年 91%，3学年 85%）であった。

今後の展開『キーワード 居場所づくり，絆づくり』

- ・今後とも、学習や学級活動、生徒会活動（部活動、委員会活動、行事）等の取組を通して、生徒同士のコミュニケーションで自己有用感が高められる場を増やしていく。そして、生徒たちの活動の様子や感想等を掲示することで、お互いを認め合い、「思いやり」とともに「頑張ること」への視野も広げていくよう仕組む。

他校へのアドバイス『キーワード 縦割り集団の活用』

- ・学年を越えた縦割りでの生徒会活動やボランティア活動等を通して、下級生は上級生が集団をリードし、思いやりのあるかかわりをする姿を見ることで上級生の良さを、上級生は集団の一員として前向きに協力しながら活動する下級生の良さをそれぞれ実感させることができる。また、今年度の学級活動では、3年生の立志式での発表会に2年生が、2年生の職場体験学習の発表会に1年生が、それぞれ参加している。立志式では地域でのお年寄りとのサロン交流や家庭科での保育実習等を通して、職場体験学習では福祉施設や看護体験等を通して、改めて「思いやりの大切さ」を学ぶことができた。将来は福祉や看護関係の仕事に就きたいなどの上級学年の生徒の発表を聞き、自分より一歩先の「思いやり」等についての考え方に触れることで、自分の将来について短期的な目標も持てるような取組になることを目指している。